

リリースノート

パッケージ一覧 : フル パッケージ リリース日 : 2011 年 1 月 31 日

製品 : DocAve® 5.6

新機能と強化点

- **DocAve データ保護の強化**

複数のファイルに分割されたバックアップからのリストア

SQL リストアでは、複数の SQL バックアップのバックアップ プランを作成し、更にそのコンテンツを 1 つのジョブでリストアすることが出来ます。複数の SQL バックアップから同じファイルがリストアされた場合、同じファイルの別バージョンとしてリストアされるか、または更新の新しいファイルがリストアされます。

DocAve サイトごみ箱 for SharePoint の DocAve バックアップ & リカバリ – for SharePoint のアドオンライセンス化

両モジュールの機能強化による機能の重複により、DocAve サイトごみ箱は個別のライセンス体系ではなく、DocAve バックアップ & リカバリに含まれる、またはデータ保護パッケージのライセンスに含まれる体系になりました。

一部のお客様への [ワークフローの状態] バックアップリストア ベータ版サポート

条件を満たす一部のお客様を対象に、AvePoint テクニカルサポートチームが SharePoint 2007 上のワークフロー履歴や関連タスクなどを含むワークフローの状態の粒度の高いバックアップリストアの設定をお手伝いし、サポートします。お使いの環境での認定プロセスの詳細については、AvePoint テクニカルサポートチームまでお問い合わせください。

- **DocAve 管理センター for SharePoint の強化**

新しい Web パーツ レポートとリンク切れの確認ツール

管理者は、このツールを使って指定範囲内の SharePoint 環境上で使用されている Web パーツの数、種類、そして場所を把握することが出来ます。リンク切れの確認ツールでは、指定範囲内でリンク切れしているリンクを一覧表示します。可能であればリンク切れとなった原因も表示されます。Web パーツ レポート及びリンク切れの確認ツールは、全体管理メニューから実行することが出来ます。

DocAve コンテンツ マネージャー for SharePoint 及び DocAve デザイン マネージャー for SharePoint のジョブへのテスト実行追加

DocAve 移行モジュールのテスト実行と同様に、デザイン マネージャー及びコンテンツ マネージャーのジョブの実行結果をテスト実行として予め確認することが出来るようになりました。これにより、お使いの環境に影響なく操作をシミュレーションすることが可能になります。

DocAve コンテンツ マネージャーでのバージョンベース操作

バージョン機能が有効になっている SharePoint 環境上でのコンテンツ移動時に、管理者が最新のメジャーバージョンのみを移動するか、または最新のメジャーバージョンと関連するすべてのマイナーバージョンを移動するかを選択することが出来るようになりました。

Web アプリケーションを跨いだコンテンツ タイプ及びカスタム ドキュメント ライブラリの複数展開

DocAve デザイン マネージャーをお使い頂くことで、管理者はお使いの環境上で有効な Web アプリケーションへカスタム コンテンツ タイプを展開することが出来るようになりました。カスタム ドキュメント ライブラリも Web アプリケーション レベルで展開することが可能です。

- **DocAve ストレージ最適化の強化**

専用 SDK を含む DocAve ファイルサーバー コネクタ for SharePoint の強化

DocAve ファイルサーバー コネクタ用に用意された SDK を使用することで、管理者は DocAve ファイルサーバー コネクタ (ファイルシェア及びメディアシェア ライブラリ) を自動的にサイジング、構成、展開することが可能になりました。詳細については、DocAve ユーザーガイドを参照してください。DocAve ファイルサーバー コネクタ (メディアシェア ライブラリ) は SharePoint Foundation 2010 でサポートされます。

DocAve アーカイバ for SharePoint の操作とフィルター オプションでの対応コンテンツ タイプの拡張

カスタム サイトのプロパティを自由自在にアーカイブすることが可能になりました。DocAve の強化されたワークフロー サポートにより、管理者は更に SharePoint のコンテンツまたはアイテムをオブジェクトのワークフローの状態に従ってアーカイブすることが可能になり、これらをカスタム列として扱う必要がなくなりました。

EBS から RBS への移行手順案内

SharePoint 2007 から SharePoint 2010 へアップグレードし、これまでの EBS 設定の代替案として RBS を活用したコンテンツのオフロードをお考えの管理者様向けに、DocAve ユーザーガイドで EBS API から RBS API へアップグレードする際の手順を記載しています。DocAve プラットフォームは、アップグレード後も外部へオフロードしたコンテンツへのアクセスが保持される様に強化されています。

- **DocAve アップグレード & 移行 for SharePoint の強化**

SharePoint 2007 から SharePoint 2010 への移行可能なコンテンツ及びコンポーネントの拡張

DocAve アップグレード & 移行 (2007 to 2010) には多くの新機能が追加されています。

- バージョン フィルター (メジャー及びマイナー バージョン、メジャー バージョンのみ、メジャー及び関連するマイナー バージョンのみ)
- 期間フィルター
- DocAve でアーカイブされたデータの SharePoint 2007 フォームから SharePoint 2010 フォームへの移行
- サイト テンプレート 置き換え設定、リスト テンプレート 置き換え設定、フィールド マッピング 置き換え設定
- カスタム及び標準のマスター ページ移行

EMC Documentum 移行対応の新プレスキャン ツール

他の DocAve 移行モジュールと同様に、DocAve EMC Documentum 移行 for SharePoint に対応したプレスキャン ツールが完成しました。これにより、管理者は実際の環境に変更を加えることなく 予め移行をシミュレーションすることが出来ます。詳細については、DocAve ユーザーガイドをご参照ください。